

日本共産党の躍進で
大企業奉仕の政治から
「国民が主人公」の政治へ

編集・発行 **日本共産党九度山町支部**

《連絡先》〒648-0101 九度山町九度山747-32

伊丹俊也

TEL&FAX 0736-26-7382

花火で思ふこと

日本共産党九度山町支部
町政対策委員長 伊丹俊也

この時期、日本全国各地で花火大会が行われており、花火の話題が花盛りです。九度山町の周辺でも、8月3日に橋本市南馬場の緑地で「紀の川橋本サマーボール2013」が開かれ、花火が約5000発打ち上げられました。残念ながら私は観に行くことはできませんでしたが、広良の自宅まで花火の音が聞こえてきました。

さて、花火の音を聞くと思い出すことがあります。それは、私が子どものころの話です。その頃、私たち家族が住んでいた家は、夏まつりの花火大会の会場から1キロほどのところがありました。そのため、花火の音がよく聞こ

えてきました。その音を聞いて私の父（故人）がこう言ったことがあります。「花火の（炸裂する）音を聞くと空襲を思い出して、いやな気分になる」と。ドンという音が、米軍の爆撃機を迎撃する高射砲の音を思い出させるといいます。私の父は徳島市出身で、空襲の経験があるのです。

花火は平和の象徴です。空

で火薬を炸裂させるのは、花火だけにしてもらいたいと私は思うのです。

最近、政権与党幹部の方たちのきな臭い話、危ない発言をよく耳にします。「国防軍をつくる」、「徴兵制になって戦争に行くのを拒否したら死刑」などなど。私たち国民は、戦争などしたくありませんし、戦争で人を殺したり、殺されたくありません。日本は国民主権つまり「国民が主人公」の国です。国民のその思いを政治に反映させ、戦争をしない日本、そして戦争のない平和な世界を作ることこそが政治家の使命ではないでしょうか？

真夏の夜、花火の音を聞きながら、そう思いました。

